

「24時間、365日、 支えあって99年」



総合施設長 浜田 悟

野山や公園では一斉に花が開き、待ちに待った春到来です。札幌でも昨日、桜の開花宣言がありました。穏やかに平成29年度が動き始めました。

私はこのたび、札幌報恩学園の園長を富田栄子さんにお願いし、統括管理とグリーンホーム厚別の施設長を拝命いたしました。精一杯頑張らせていただきますので、よろしく願いいたします。

さて、私どもの法人がお世話になっている地域に、友愛クラブというお年寄りの会があります。そこで先日、年次総会があり交流会に参加させて頂きました。小中学校の校長先生、教頭先生、そして町内会連絡協議会の会長さんもおいでになり、賑やかで楽しい会になりました。飲み物やご馳走のほかに、フラダンス、民謡、カラオケ等など本当に楽しい時間でした。私も、カラオケをすすめられ、その気になって一曲歌ったのですが、ある先輩から「もう少し努力を要する」とのご指導を受けてしまいました。

友愛クラブは60歳から会員資格があるとのこと、斯く言う私も十分有資格者で有ります。「昨今は、新入会員が少なく残念である」と、90歳の先輩がおっしゃっておりました。可能であれば、来年も出席させていただき、カラオケで及第点をいただきたいものです。

話は変わりますが、何度かお伝えしている、新事業所の「幌西ほうおん(こうさいほうおん)」が、4月1日より、中央区南14条西16丁目の地で開所致しました。8名の職員が上野幌から異動し、管理者の富田弘樹さんを中心に新しいサービスづくりに奮闘しております。私どもの法人の発祥の地でもあり、新たな歴史づくりに期待が膨らみます。

加えて、「トマト」というわが法人が初めて自前で建てたグループホームもできあがりしました。同じ4月1日開所で、一階の2部屋は車椅子での生活ができるように作っていただきました。身体に障害のある方を含め5人の方たちが

すでに新生活を開始いたしました。以上、新しい二つの事業にご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

昨年度は、社会福祉法人制度改革に合わせた組織変更が大きな仕事となった年でした。これまで、理事会が最終議決機関でしたが、今度は理事会が事業を計画・運営し、評議員会が事業報告をチェック、承認ということになります。加えて、評議員会が理事を任命、解任の権限を持つということにもなりました。理事会に力が集まり暴走せぬよう、チェック機能が働くようになったということです。

加えて、評議員選考解任委員会の人選と評議員各位の選考も終了いたしました。新しい制度の下、4月1日付で7名の方(HP参照)にお引き受けいただきました。

実は、こういった決まりは法人の定款(ていかん)に記載されているもので、この定款変更手続きが大変な作業でした。法律の変更に沿いながらも、札幌報恩会の実情に合う内容を検討、条文化し、理事会決定そして役所の承認という手はずになるわけです。この作業を村田事務局長が担ってくれました。本当にお疲れさまでした。今年度も引き続き「地域における公益的な取り組み」「社会福祉充実計画」「会計監査人の導入」等々の検討も残っております。一つ一つしっかりとクリアしてゆく所存であります。

本年は、創設者小池九一翁が大正7年11月30日に札幌報恩学園を創設して以来、満99年になります。報恩会にかかわった諸先輩たちと、いま居る300名の職員とともに、今日現在「支えあって98年と5か月」の年月を重ねてきたことになります。来年の100年、そして200年に向けて、さらなる飛躍を目指し努力してゆきたいと思えます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(平成29年4月29日記)